

授業科目	情報法・法情報学演習
演習題目	情報技術と法
担当教員	成原慧・西村友海
授業の目的	情報技術と法の交錯する問題（例えば、メディアの自由と責任、インターネットの自由と規制、プライバシー、個人情報の保護と利活用、人工知能（AI）による判決の分析や契約の自動審査、法情報／法実務を対象としたAIやデータに関する技術の応用など）について理論と実務の両面から多角的に理解し、解決するための知識および技能を修得することを目的とする。あわせて、ゼミでの報告、議論、論文執筆等を通じて、論理的・分析的に調査・思考・表現し、他者と議論する能力を修得することを目的とする。
履修条件	特にないが、知的好奇心が旺盛で柔軟な思考力のある学生、ゼミに積極的・主体的に参加する意欲のある学生の履修を歓迎する。情報法および法情報学の講義を履修済みか、並行して履修することが望ましい。
教科書・参考書	<p>適宜ゼミ内で紹介するが、さしあたり下記の文献をお薦めしておく。</p> <p>曾我部真裕＝林秀弥＝栗田昌裕（著）『情報法概説 [第2版]』（弘文堂、2019年）</p> <p>弥永真生＝宍戸常寿（編著）『ロボット・AIと法—ロボット・AI時代の法はどのような』（有斐閣、2018年）</p> <p>松尾陽（編）『アーキテクチャと法—法学のアーキテクチャルな転回？』（弘文堂、2017年）</p> <p>那須耕介＝橋本努（編）『ナッジ!?—自由でおせっかいなりバタリアン・パターナリズム』（勁草書房、2020年）</p> <p>水野祐『法のデザイン—創造性とイノベーションは法によって加速する』（フィルムアート社、2017年）</p> <p>ローレンス・レッシング（山形浩生訳）『CODE VERSION 2.0』（翔泳社、2007年）</p> <p>キャス・サンスティーン（伊達尚美訳）『選択しないという選択—ビッグデータで変わる「自由」のかたち』（勁草書房、2017年）</p> <p>郭微『法・情報・公共空間—近代日本における法情報の構築と変容』（日本評論社、2017年）</p> <p>宇佐美誠（編）『AIで変わる法と社会—近未来を深く考えるために』（岩波書店、2020年）</p> <p>角田美穂子＝フェリックス・シュテフェック（編）『リーガルイノベーション入門』（弘文堂、2022年）</p>
授業の計画・内容	<p>前期のゼミでは、学生が交替で情報法に関連する文献や判例をレビューする報告を行い、報告について全員で議論を行う。</p> <p>後期のゼミでは、ゼミ論の執筆に向けて学生が交替で報告を行い、報告について全員で議論を行う。</p> <p>毎回のゼミでは、報告者はもとより、他の学生も積極的・主体的に議論に参加することが期待される。授業時間は若干延長する可能性がある。</p>

	<p>研修旅行、合宿、関連分野の研究者・実務家によるゲスト講義、学内外の関連分野の教員のゼミとの合同ゼミなどの企画も検討している。</p> <p>なお、2024年度は、前期中、成原准教授が在外研究を行っているため、前期のゼミでは西村准教授が中心に指導を行い、後期のゼミでは成原准教授と西村准教授が合同で指導を行う。</p>
成績評価の方法	<p>ゼミでの報告、ゼミの議論や活動への貢献およびゼミ論により評価する。</p>